



# おおくす



## 力を合わせて、美しい歌と演奏を

## ～4年生 音楽会～

12月5日(金)に鈴鹿市小学校音楽会が開催されました。今年も4年生が学校代表として出場しました。4年生は2学期に入ってから、運動会の取組と並行して音楽会に向けての練習を積んできました。



音楽の時間には、それぞれが担当する楽器のパートを完璧に仕上げようと、空き教室も使い、分散して練習に励んできました。そして、発表会が近づくと、朝早くから合唱の練習を繰り返し行っていました。

本番の数日前に、保護者向けの発表会と、全校集会での発表がありました。保護者向け発表会は、とても緊張したようですが、発表後にたくさんのお褒めの言葉や、励まし

のお声をいただき、子どもたちはかなり自信をつけたようでした。

全校集会の時は、発表曲「千年のくすの木」に関わっていただいた方々をお招きしての披露になりました。この日も、4年生は堂々とした演奏ときれいな歌声を体育館いっぱいに響かせ、全校



の子どもたちから、たくさんの称賛の声と、本番も頑張っしてほしいという力強いエールをもらいました。その後、「千年のくすの木」の作詞・作曲をされた宮崎さんや、その曲を児童合唱用に編曲された大竹さんにコメントをいただき、最後に歌手の小沢さんに歌っていただきました。プロの歌手が歌う「千年のくすの木」は、子どもたちの合唱とはひと味違った趣があり、またすばらしいものでした。この日の集会は、子どもたちにとっても、参加して下さった関係者の方々にとっても、心温まる特別な集会になりました。

そして、音楽会当日も4年生の子どもたちは、市民会館という大きな舞台上、これまで練習してきた成果と、たくさんの方々への感謝の思いを乗せ、堂々としたすばらしい発表をすることができました。さらに、音楽会では、市内7校の発表を鑑賞することができたので、4年生の子どもたちは、大いに刺激を受けたようでした。

音楽会に関わって、4年生保護者の皆様をはじめ、たくさんの方々の関係者の方々にお世話になりました。子どもたちは、この大きなイベントを通してまた一つ成長できました。ありがとうございました。



写真左から大竹さん・宮崎さん・小沢さん



# 心と体の成長のための 大切な教育

## ～食育の学習と保健指導～

本校では、栄養教諭を中心に食育の学習を行っています。  
食育は、計画的に全学年で実施し、各教科の学習に関連付けて、下の表のような学年にふさわしいテーマで取り組んでいます。

これらの学習を通じて児童は、食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会的マナー、食文化などを学び、望ましい食生活などに対する子どもたちの関心と理解を深めていきます。



1年生	生活「きゅうしょくができるまで」(6月)	生活「さつまいもについて」(10月)
2年生	生活「なつやさいについて」(6月)	道徳「おせちのひみつ」(12月)
3年生	総合「すずか市の食べ物を知ろう」(7月)	国語「大豆について知ろう。」(11月)
4年生	社会「給食室から出るごみ」(6月)	保健「よりよく成長するための食事」(2月)
5年生	社会「米を食べるよさについて」(9月)	家庭「食物にふくまれる栄養素と働き」(11月)
6年生	家庭「栄養バランスのよい朝ごはん」(5月)	家庭「1食分の献立を立てよう」(10月)



食育と同じく、心と体の成長のために欠かせないのが、保健指導です。こちらは、養護教諭を中心に、保健の学習時間や総合的な学習の時間、あるいは発育測定や各種健診の前後に、体に関する様々な知識や病気の予防などについて指導しています。

特に小学校の6年間に、劇的な成長と体の変化を迎える子どもたちにとって、保健指導は不安や悩みを緩和する大切な機会にもなっています。

ご家庭で、子どもたちが食生活や身体のことについて、話し始めたときには、ぜひとも耳を傾け、適切なアドバイスをしていただいたり、相談にのってあげたりしてください。

## 第4回学校運営協議会（大木中学校区合同学校運営協議会）

11月25日(火)、大木中学校区合同学校運営協議会が開催されました。4校から約40名の学校運営協議会委員さんが、大木中学校に集まり、人権教育センターの 原 先生から「鈴鹿市子ども条例」に関わる講演を聞かせてもらいました。

鈴鹿市子ども条例は、「児童の権利に関する条約」や、「こども基本法」の趣旨を踏まえ、こどもの権利を守り、社会全体でこどもの健やかな成長を支え合うことにより、全てのこどもが健やかに成長できる社会の実現を目的としています。この条例では、こどもの健やかな育ちを支援するに当たって6つの基本理念のほか、こどもの大切な権利や大人の責務と役割、基本的施策などについて定めています。（詳細は、鈴鹿市のホームページをご覧ください。）

講演では、「おとながこどもの声を聴くことから」をテーマに、日本の子どもたちの「幸福度」が世界的に低いことについての話題から、これから大人は子どもたちとどのように関わっていけばよいかまで、様々なお話を聞かせてもらいました。中でも、「子どもを差別しないこと」「子どもの意見を尊重すること」「生活や健やかな育ちを保障すること」「社会参加する機会を確保すること」などは、今後私たち大人が意識していくべき大切な課題であることが分かりました。これからも、学校・保護者・地域・行政が連携し、まずは、「子どもたちの声を聴くことから」教育に取り組んでいきたいと思っています。

